

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

○委員長（小林 芳幸）

1 調査事件

(1) 日乃出清掃工場整備工事に伴う可燃ごみの処理について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 本件については1月22日付けで環境部から資料が配付されており、その内容について説明を受けるため、理事者の出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、理事者の入室を求める。

（環境部 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ それでは説明をお願いします。

○環境部長（小林 利行）

- ・ 現在、工事を進めている日乃出清掃工場整備工事については、この工事期間中に全炉休炉期間があり、期間中のごみの対応についてご説明する。
- ・ 資料の詳細については担当課長の方から説明させていただく。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 資料説明：日乃出清掃工場整備工事に伴う可燃ごみの処理について（令和6年1月22日付 環境部調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりだ。
- ・ ただいまの説明について各委員から何か御発言はあるか。

○金澤 浩幸委員

- ・ まず、非腐敗性可燃ごみの処理の中で、環境部の施設内に一時保管するという想定があるが、想定している量と、現在の環境部の施設・敷地内に保管場所が間違いなく確保できるのか。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 環境部内の施設として、恵山と南茅部に元々あった焼却施設のクリーンセンターがある。量としては50トンから60トン程度保管でき、日乃出の焼却炉が稼働したときにまた持ってきて燃やすという形で処理することを考えている。

○金澤 浩幸委員

- ・ 今、日乃出清掃工場だけでは足りないのではないかと確認させていただいた。
- ・ 近隣自治体焼却施設への処理依頼のところ、北斗市は生ごみを完全に分別していると思うが、函館市民への周知や、この期間分別を本当にやらしてもらえるような状態が作れるのか、生ごみが入った状態だと北斗市は受け入れてくれないと思うが、そのあたりどう考えているか。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 確かに広域連合では生ごみの収集と燃えるごみの収集は別の曜日になっているが、生ごみだけでは焼却炉がうまく作動しないらしい。
- ・ 収集日は分けているが燃やすときは一緒なので、函館市のごみについても問題なく焼却できる。

○金澤 浩幸委員

- ・ 現状の函館市の燃やせるごみの分別でもクリーンおしまは受け付けてくれるということで分かった。
- ・ 休炉期間のごみの分別などの周知方法についてだが、以前うちの町会で出前講座を受け、職員から詳しく教えてもらった。
- ・ せっかく良い出前講座をしているのだから、例えば町連などに環境部で出前講座をやっていることをもっとアピールして、たくさん講座を受けてもらうようにしてほしい。
- ・ 七五郎沢の最終処分場に埋め立て処分することが書かれており、埋め立て処分場の寿命が今回の受入れによって短くなるような影響はないのか。
- ・ あるいは以前やったように、埋めたものを掘り起こして焼却することも考えているか。

○環境部埋立処分場長（中村 直人）

- ・ 最終処分場については、第三次一般廃棄物処理基本計画において、令和 11 年度頃まで使用可能としていたが、平成 30 年度から産業廃棄物の受入れ停止や、ごみの減量化と資源化の推進により、今のところ令和 19 年度頃までの使用が可能と見込まれている。
- ・ 日乃出のごみがどれだけ入ってくるかがまだ確定していないため、どうなるかわからないが、今後、外部処理委託先の受入れ拡充などの対策を図り、可能な限り影響を少なくしていきたい。

○金澤 浩幸委員

- ・ とりあえず当初の予定どおり令和 19 年度ぐらいまでは大丈夫ということでわかった。
- ・ 令和 19 年度までそれほど時間もないので、次の最終処分場についても考えていかなきゃいけない時期が来ていると思うので、そこら辺も考慮して進めていただきたいと思う。

○川崎 啓太委員

- ・ ダンボール類などは後回しにするということで燃えにくいごみが集中すると思うが、燃料高騰もあると思うが、その計算も一応きちんと加味されているか。
- ・ 飲食店などに生ごみ処理機普及に努めるとのことだが、補助金はあるのか。それとも普及に努める啓発事業なのか

○環境部日乃出クリーンセンター所長（田中 庄司）

- ・ 清掃工場ですら燃料については、ごみの持つエネルギーで焼却することを基本としており、極力燃料を使わないような形で考えている。

○環境部環境推進課長（小園 敏弘）

- ・ 飲食店等への生ごみ処理機は、今のところ補助金ではなく、普及啓発をすることを考えている。
- ・ これについては、何百万円という初期費用が掛かり、生ごみの種類にもよって効果に差が出るので、試しに使っていただき、思ったような効果があるのか、電気代がどれくらい掛かるのかといったことを試すため、デモ機を貸し出すような事業を来年度の事業として考えている。

○川崎 啓太委員

- ・ 燃料に関してだが、生ごみが集中する可能性が結構あると思うが、その場合も大丈夫であるとの見通しがされているのかということを知りたい。

○環境部日乃出クリーンセンター所長（田中 庄司）

- ・ 清掃工場を建設した当時の設計では、基本生ごみだけを燃やすという設計で、その後衣類などの繊維類とかプラスチック類を燃やすようになり、今ではカロリーが高くて逆に焼却炉にあまり良くない影響を与えているので、生ごみだけでも十分燃やせる能力がある。

○富山 悦子委員

- ・ 私も日頃、家庭ごみが多いと言われていたので何とかしたいなと思っているが、生ごみの処理機への助成は以前に函館市で取り組んだことがありますよね。その時のアンケート結果も良かったと記憶しているが、そのことについて今後の考えを知りたい。道内の自治体を調べてみると、2023年度で179自治体中32の自治体が、1万円から7万円の助成をしており、家庭で生ごみを処理してもらっている。そのことを踏まえた考え方を教えてほしい。
- ・ 日乃出いこいの家のお風呂のお湯として使っているが、休炉期間はどのようになるのか。

○環境部環境推進課長（小園 敏弘）

- ・ まず、家庭で使われる電動生ごみ処理機の補助の話かと思うが、以前、平成24年度まで購入費の補助をしており、市としても有効性についてはあるなというふうに考えており、この度、あらためて令和6年度予算に予算要求している。

○環境部日乃出クリーンセンター所長（田中 庄司）

- ・ 日乃出いこいの家の公衆浴場の件だが、工事期間中は日乃出清掃工場から給湯できなくなる期間があるが、仮設ボイラーを設置して長期に休館しないよう対応したい。

○富山 悦子委員

- ・ 分かった。これからの予算に電動生ごみ処理機が入ってくるということで期待したいと思う。
- ・ あと、毎年7万5千トン排出されているとのことだが、そのうち家庭ごみというのはどのくらいあるのか。

○環境部環境推進課長（小園 敏弘）

- ・ 直近が令和4年度の実績になるが、家庭から出るごみは4万3,534トンで、事業系のごみが3万2,224トンということで7万5千トン程度となっている。

○見付 宗弥委員

- ・ この先3回停止期間があるということで、当面は令和6年10月の14日間が一番の注目点かなと思うが、まず最初に14日間の日程が分かれば、少しでも早く市民の皆さんに伝えた方がいいのではないかと思う。日程について伺う。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武磨）

- ・ 今想定している日程はあるが、まだ動く可能性があるため日付の公表は控えさせていただく。今後、確定次第お知らせしていく。

○見付 宗弥委員

- ・ 少しでも早い方がいいと思うのでお話しさせていただいた。

- ・ もう一度、10月の14日間に焦点を当てて話を聞きたいと思うが、この14日間で3千トンの可燃ごみの処理が市ではできなくなるということで、可燃ごみの中に腐敗性と非腐敗性のものがあるとのことだが、生ごみは腐敗性のごみということでよいか。
- ・ 3千トンのうち、腐敗性の可燃ごみ——生ごみの排出見込みを教えてください。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 燃やせるごみの組成分析をした結果では約4割が生ごみとなっているので、3千トンのうち1,200トンになる。

○見付 宗弥委員

- ・ 例えば時期ごとに排出量が違うというふうに思うが、この10月のこの時期では3千トンのうち1,200トンの生ごみが想定されるということでよいか。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ お見込みのとおり。

○見付 宗弥委員

- ・ そうすると3千トンのうち1,200トンが生ごみとのことだが、紙などは悪くならないのでその時期に出さないで、あとで出してくださいというようにできると思うが、今言った1,200トンの生ごみの関係で、まず1つが貯留ピットを最大限に活用するということが、最大限活用してどのくらい保管できる見込みなのか。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 日乃出清掃工場のごみのピットは、1千トン貯留できるが、積み方の工夫で一時的にこれの1.5倍くらいの1,500トン程度を積みたいと考えている。

○見付 宗弥委員

- ・ 先ほど言ったように、例えば生ごみで1,200トン出るとすると、すべて貯留ピットに保存という想定か。
- ・ 要はそこで収まれば函館市だけで処理ができる——当然、腐敗は進んでいくでしょうが——それは工場が再開してから焼却し、クリーンおしまには運ばなくていいということか。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 3千トン出るとするのは生ごみだけではない。他にもいろいろなものが入ってくるので、やはり貯留ピットに入るのも限界があるので、やはりクリーンおしまに協力をいただくなど、いろいろな対策をとって対応していきたいと考えている。

○見付 宗弥委員

- ・ 貯留ピットに入る分は入れて、入りきらなくなった部分はクリーンおしまに依頼をするという考え方でよろしいか。

○環境部施設整備担当課長（桐澤 武麿）

- ・ 基本的にはそのような対応である。

○環境部長（小林 利行）

- ・ クリーンおしまへの搬送の件だが、休炉期間については基本的に他の対策と同時並行的に、クリーンおしまにも一定程度のごみを搬送するという対策をとらせていただき、ピットにもなるべく負荷を

かけず、他の対策にも影響のないよう、この休炉期間中についてはクリーンおしまに持っていくことを考えている。

○見付 宗弥委員

- ・ ピットにごみを積んで、いっぱいになってからクリーンおしまに持っていくのではなく、同時並行でいくということなんですね。なんかちょっとわかりにくいですが、全部クリーンおしまに持って行くわけではないのか。

○環境部長（小林 利行）

- ・ クリーンおしまについては、1日の処理量の限界があり、おおむね50トンから60トンの引き受けが可能だというふうに聞いている。そういう意味で1日一定量をクリーンおしまに持って行って函館市のピットの負荷についても少し軽減を図りながら対策を打っていくというような状況である。

○見付 宗弥委員

- ・ クリーンおしまの方で函館の可燃ごみすべてを受け入れるわけにはいかないの、どのくらい受け入れられるか見ながらということが分かった。
- ・ 数字的なものは実際やってみなければわからない部分もあるが、想定している方法については分かった。
- ・ 10月の14日間何もなく過ごせるように期待をしたいと思うが、ぜひ十分な対応をお願いします。

○富山 悦子委員

- ・ 確認なんです、私はごみをなるべく出さないように思っているが、その14日間はいつものごみのステーションに回収はしてくるのか。回収はするけれども、処理の仕方がこういうふうになるということではいいか。
- ・ ごみ収集日カレンダーは変わらないということではいいか。

○環境部次長（田中 修一）

- ・ 収集の関係については、これまで通り収集をし、処理については、今説明したような対応をしたいと考えている。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言はあるか。（なし）
- ・ 理事者においては本日の質問の趣旨を踏まえ、今後の対応を進めていただきたいと思います。
- ・ 理事者は退出願う。

（環境部 退出）

- ・ 議題終結宣言

(2) 市立函館南茅部病院移転新築基本計画（原案）に対するパブリックコメント（意見公募）手続の実施について

(3) 函館市病院事業経営強化プラン（原案）に対するパブリックコメント（意見公募）手続の実施について

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 議題宣告

- ・ 本件については、互いに関連する案件であるから一括議題とする。
- ・ 2件については1月24日付けで、病院局から資料が配付されており、その内容について説明を受け
るため、理事者に出席を求め一括して説明を受けたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは理事者の入室を求める。

（病院局 入室）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ それでは説明をお願いします。

○病院局管理部長（深草 涼子）

- ・ 病院局では老朽化している市立函館南茅部病院の移転新築基本計画（原案）と函館市病院事業経営
プラン（原案）の2件を1月24日に資料配付している。
- ・ 資料の詳細については担当課長の方から順次説明させていただく。

○病院局管理部次長（田村 隆弘）

- ・ 資料説明：市立函館南茅部病院移転新築基本計画（原案）に対するパブリックコメント（意見公募）
手続の実施について（令和6年1月24日付 病院局調製）

○病院局管理部経理課長（熊木 武）

- ・ 資料説明：函館市病院事業経営強化プラン（原案）に対するパブリックコメント（意見公募）手続
の実施について（令和6年1月24日付 病院局調製）

○委員長（小林 芳幸）

- ・ お聞きのとおりだ。
- ・ ただいまの説明について各委員から何か御発言はあるか。

○富山 悦子委員

- ・ 今回、南茅部病院の新築に当たって、回復リハビリの病床にすることだが、それを選択した
理由、また回復リハビリについて、回復リハビリ施設基準をとった病棟みたいなものを造るのか、それ
ともただの機能回復のみなのか、そうであれば、リハビリ室の理学療法士が1人ということだが、リハ
ビリ室の面積や、本当に1人で足りるのかということも含めて意見を伺いたい。
- ・ それと経営プランと重なる部分があるが、看護師確保が一番大変だと思う。例えばその看護師確保
について、勤務状態が3交代なのか2交代なのか、それにより人数も変わってくると思うが体制の在り
方を伺いたい。
- ・ それから検査室と事務の外部委託先はどのようになるのか、また薬局は院外処方なのか外来の方も
院内処方なのかということ、あと管理栄養士が何人必要なのかということを教えてほしい。

○病院局管理部次長（田村 隆弘）

- ・ まずリハビリ機能を選んだ理由ですが、可能な限り住みなれた地域で在宅復帰に向けた医療やリハ
ビリを提供する施設が望ましいと考え、それ以外にも長期の入院が必要な患者についてはその状況が
安定するまでの間は対応していきたいというふうに考えているが、まずは高度急性期病院で治療を終
えた方が自宅に帰れるまで、リハビリ回復機能を持たせた施設が望ましいというふうに考えたところ
である。
- ・ 病棟については19床を予定している。特にリハビリ機能専門の病棟ということではなく、例えばリ

ハビリについても、訓練室でリハビリする場合や、病室のベッドでリハビリすることもあるかと思う。その辺はその患者に応じた対応をしたいと考えている。

- ・ 面積につきましては、お示しした部分については今後、実施設計、基本設計等々の中で詳しく精査したいと思う。
- ・ リハビリの職員の数についても、患者の状況に応じて、現在は1人を想定しているが、函病のスタッフがいたので必要に応じて派遣——応援というような形で対応できるというふうに考えている。
- ・ 次に看護師については、現在2交代を考えており、今後もそれは継続していくつもりである。看護師確保に関しては、今後は地元で採用できないということであれば、これも函病の方から派遣とか応援というような形で対応していけるというふうに考えている。
- ・ 事務について、医事業務に関しては一部委託しており、検査業務は検査技師は1人いるが基本は委託している。薬局についても、院外薬局を基本としている。
- ・ 管理栄養士については職員を1人配置しており、調理については直営で実施している。

○富山 悦子委員

- ・ 外部委託することはわかったが、検査と事務に係る外部委託先の名称を教えて欲しい。

○病院局管理部経理課長（熊木 武）

- ・ 検査委託の業務については、ちょっと記憶になくて申し訳ないが、医事業務については現在ニチイ学館に委託をしている。
- ・ ただ新しい施設ができる頃にはもう三、四年経過した後ということになるので、その時点でまた改めて入札などにより業者を決めていきたいと考えている。

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 他に発言はあるか。（なし）
- ・ 理事者は退出願う。

（病院局 退出）

- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（小林 芳幸）

- ・ 次に2のその他だが、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時57分散会